



沖縄子どもの未来県民会議 地域円卓会議 in 石垣市

子どもの貧困問題に、
石垣市の地域社会はどう取り組むのか

実施報告書

日 時： 2017 年 11 月 9 日（木） 18:30-21:00
場 所： 石垣市健康福祉センター（沖縄県石垣市登野城 1357-1）
主 催： 沖縄県、沖縄子どもの未来県民会議
共 催： 石垣市
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】沖縄子どもの未来県民会議 地域円卓会議 in 石垣市



■日 時：2017年11月9日（木）18:30-21:00
■場 所：石垣市健康福祉センター
■着席者数：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
■来場者数：37名（行政・NPO・福祉機関・学校関係）

■主 催：沖縄県、沖縄子どもの未来県民会議
■共 催：石垣市
■協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO 法人まちなか研究所わくわく
■お問合せ：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供 喜舎場 健太 氏（沖縄子どもの未来県民会議事務局長）

子どもの貧困問題に、石垣市の地域社会はどう取り組むのか

沖縄県で実施した平成27年度「子どもの貧困実態調査」において、29.9%の子どもが貧困状態に置かれていることが明らかになったほか、平成28年3月には、子どもの貧困対策の基本方向を定める「沖縄県子どもの貧困対策計画」を策定しました。そうした中で、県民の総力を結集し、沖縄の未来を創造する子どもたちが安心して暮らせるよう、同年6月に県内各界各層の110団体からなる「沖縄子どもの未来県民会議」を設立し、子どもの学びと育ちを社会全体で支え、地域の実情に即した対策に取り組むこととしております。今回の円卓会議では、石垣市における子どもの貧困問題に対して、一つひとつ事実を確認しながら課題を共有し、石垣市の地域社会では、子どもの貧困にどう取り組むべきかを議論します。県民のみなさんや関係者、専門家の方々と一緒に、考えていきたいと思っております。

センターメンバー



喜舎場 健太
沖縄子どもの未来
県民会議
事務局長



宮良 亜子
石垣市福祉部
部長



山里 世紀子
サポートセンター
HOPE
代表理事



長浜 寛
大浜公民館
館長



本村 真
琉球大学法文学部
人間科学科教授



大嶺 雅俊
琉球新報社
八重山支局
支局長

➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

● 石垣市の子どもの貧困をとりまく基本情報

	石垣市	沖縄	全国
人口（H27年） （人）	47,564	1,433,566	127,094,745
17歳以下の子ども の人口（H27年）（人）	10,247	298,104	19,494,093
婚姻率（人口千人 対）（H28年）（%）	7.0	5.9	5.0
10代の出産割合 （H28年）（%）	3.5	2.6	1.1
離婚率 （H28年）（%）	3.25	2.59	1.73
ひとり親出現率 （H25年度）（%）	4.03	5.46	—

- ✓ 児童扶養手当受給世帯数は、平成（以下：H）23年829世帯、H27年944世帯となっており、過去5年間で115世帯増加している
- ✓ 児童館の設置数は1箇所だが、子どもの居場所の設置数は3箇所ある（H29年）
- ✓ 生活保護受給世帯は、H24年度847世帯、H25年度861世帯と増加。その内、母子世帯数はH24年度73世帯、H28年度66世帯である
- ✓ 生活保護受給世帯の中で、18歳以下の子どもがいる世帯数は73世帯、151人。内訳は、小学生49人、中学生29人、高校生28人、未就学45人（H28年度）
- 石垣市児童家庭課の取り組み
 - ✓ 子どもの居場所運営支援事業
 - (1) 子どもホッ！とステーション
食育支援、学習支援、生活指導を実施。やしの実保育園跡地を利用し、委託運営。25人が利用し満員状態
 - (2) 子どもホッ！とステーション未来塾
健康福祉センター内石垣市子どもセンターを利用し学習支援を実施。開所時間は午後6時以降。対象は中学生で、現在14名が利用
 - (3) まきら子どもホッ！とステーション
H29年10月開所。まきら団地の自治会室を利用し、火、水、金曜の14:00～18:00、土曜の10:00～18:00に開所している。1日あたり20人ほどが利用しており、すでに満員状態である
- 子ども支援員の状況
 - ✓ 沖縄子供の貧困緊急対策事業を活用し、児童家庭課に子ども支援員を3名配置。学校、家庭での子どもの状態把握を行い、子どもの居場所に繋ぐ支援を行う
 - ✓ 学校や地域、他機関と情報共有し、連携している。児童手当受給についての相談をきっかけにするなど、色々な切り口で家庭訪問を行っている

- 前年度は、『子どもホッ！とステーション』に子どもを繋ぐのが難しかったが、子ども支援員さんと連携がとれるようになったことで、現在は繋がられている
- 石垣市教育委員会の取り組み
 - ✓ 生活保護受給世帯と準要保護世帯に就学援助を行っている。H28年から認定基準を緩和し、H29年度の認定率は16%と増加してきている
 - ✓ H30年4月から給付型奨学金制度を開始。島外進学者を対象として、年間2名、毎月5万円を給付予定
 - ✓ 給付型奨学金は、既存の貸付型奨学金基金から運用
 - ✓ 沖縄県の一括交付金を利用し、児童・生徒派遣費助成事業を実施している。島外の場合は8,000円、県外時は21,000円を上限として、渡航費の1/2を補助している。H29年は4,265万円の予算をたてている
- 石垣市福祉総務課の取り組み
 - ✓ 困窮世帯の中学生を対象に無料塾を実施。9箇所の一般の塾から本人に好きな塾を選んでもらうスタイルをとっている。1箇所の塾に集中させないことで、「支援を受けている子ども」というのを他の子どもたちに知られにくいようになる。H28年度22人が通塾し、その内の3年生7人全員が高校に合格した
- 児童館への距離が遠く、徒歩で通える子どもたちは少ない。そのため、利用するには親の送迎が必要であり、送迎等がなく利用できない子どもたちもいる
- 困窮世帯の場合、参加費を要するイベントやお祭りなどへの参加は困難で、孤立していることもある
- 大浜地区では、地域での行事の際に子どもと高齢者が関わる機会をつくっている。会話をしながら現状を知るための聞きとりを行ったり、身なりや応対の様子などを見るようにしている
- 多子世帯へのガス料金10%還元プランの実施や味処のりば食堂では毎週土曜日17時～19時の間、300円程度で子どもや高齢者への食事提供、カーブスではフードドライブ事業への提供等、民間企業の取り組みもされている
- 現在、石垣市は市民へアンケートを実施しているが、市民から『アパートの家賃が高い』『給与の1/3は住居費に消えてしまう』との声が多くあがっている
- コープおきなわと医療生協が石垣市内に地域の交流拠点をつくろうと動き出し、場所を探している

事例の提供

- 浦添市は11の小学校付近に11児童館が設置されている

視点の提供

- 様々な取り組みや制度が必要な人たちに伝わっているのか、発信の仕方を検討する必要があるのでは
- 子ども支援員と学校の連携がうまくできると、好事例に繋がる印象がある
- 児童館は、0～18歳子どもたちが自由に利用できる場所で、学校の近くにあることが多い。最低でも、中学校区1区につき、1つあるのが良いとされる
- 児童館の役割は、乳幼児の親子が保育所に入る前に交流や情報交換をしていく中で、ネグレクトや児童虐待の早期発見と関係機関へ繋げること
- 公民館などの地域にある施設を利用し、子どもたちへの支援の網目を埋めていく体制をつくっていくべき
- 高齢者向けの食事提供をしているところと連携して、ゆかいで楽しい時間が過ごせる場づくりをしてはどうか
- コミュニティの近さにより、居場所の利用者となり得る人が気を使ってしまったり、「知られたら困る」という思いから関わりを拒否してしまう
- 学校のプラットフォーム化と同時に、支援者を活用できるよう先生たちへの支援や研修が必要なのでは
- 学校の教員が新しい対策等をキャッチできるように情報を『みえる化』することが求められる
- 民生委員訪問時、子どもがいる世帯の中にはドアを開けながらいることがある。学校や親と連絡をとりながら、関わる回数を増やしていくのが大切だ
- 大学コンソーシアム沖縄には、学生ボランティアセンターがある。大学生がいない石垣市に、『ななめの関係性』で接する大学生を派遣するのはプログラムになり得る
- 島外に出る人が多いという島の特性を活かして、目的を限定して寄付を募ると、島外の人的・資金面の協力がもらえるのではないかと
- 困難なケースに対応できる、ボランティア養成システムは必要で、地域で地域の課題を解決できるような人材を育成していくと良い

評価の提供

- 生活が困窮していると、社会との繋がりが薄くなったと、相談できる友人や知人がいなくなり、孤立していく状況がある。また、その割合は年齢ごとに上がっていく
- 石垣市の就学援助率は17.46%なのに対し、認可私立保育所の費用徴収階層（第1階層及び第2階層）の割合は、35.58%となっており、割合に差がある。サポートしきれない、見えていない、補足出来ていないこともあるのではないかと
- 石垣市は、H27年から子ども若者地域支援事業を行っており、支援者への引きこもり予防や子ども若者支援について学ぶ機会を設けている。市として行っているのは石垣市だけで評価できる現在、子ども支援員はフル稼働の状態、足りていない。子どもの居場所数、利用者枠数ともに増やす必要がある
- 離島であるがゆえの課題として、部活動、スポーツ活動の遠征時の旅費や修学旅行費の負担がある

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 離島地域の福祉課題の長短所（地域コミュニティの狭さ、人材不足）を認識し、補完する対策を
- 地域内で、子どもと接点を持つ方々がつながり、困難な子どもを日常からしっかり捕捉する
- 補足した子どもへの対応では、本島や外部のネットワーク（プロの力）を活用し、適切な処置を行える状態を作る

■参加者によるサブセッション

「子どもの貧困問題に、石垣市の地域社会はどう取り組むのか」(原文のまま)

- ① 情報を得る方法として、地域関わり→学校への繋ぎ 地域の顔が見える関係
- ② 石垣島での子育て
 - ・子供医療費など他県と違う
申請の仕方・手続き やり方がわからない
 - ・制度の利用
本当に必要な人への情報提供
どのように伝えたらいいか?
- ③ ・セーフティーネットに引っ掛からない子供は、どこが誰がどのようにして救い拾い上げるのか!!
 - ・学校、行政、公民館、各専門機関との横の連携がやはり薄いのではないかと疑問が残った
- ④ ・学校と保護者の連携が重要
 - ・学校間で情報の周知に差がある
 - ・無料塾→選択肢があることでレッテルを貼られることがない
- ⑤ ・子ども食堂→子どもわくわくクッキング
地域づくり 高齢者と子ども
「拠点づくり」 貧困対策事業
→子ども、親の居場所
若年妊娠
キャリア教育) 小学校で教育 貧困の連鎖
- ⑥ ・事業について、必要とする人たちと接する機関、組織に周知する。
 - ・子どもに対しても、情報を伝える (制服のリユース等)
- ⑦ 福祉と教育の連携を強化する。
学校をプラットフォームとして考える
- ⑧ 児童養護施設の子ども対象に昨年から給付型奨学金などができた。
不登校だった子どもにその話をすると、学校に通うようになった。「どうせできないんだろう」という考えだったのがまっすぐ進んでいく。その姿を見て、中学生もがんばるようになった。「先行投資」で負の連鎖断ち切れるのでは?

沖縄子どもの未来県民会議地域円卓会議 in 石垣市 参加者アンケート集計

◆概要

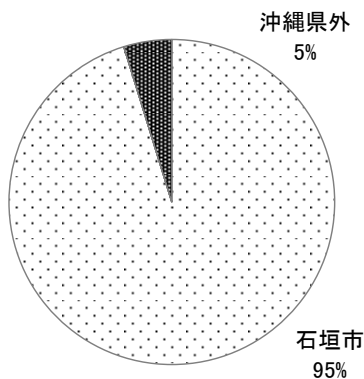
- ・日時：2017年11月9日(木) 18:30-21:00
- ・場所：石垣市健康福祉センター
- ・着席者：8名(論点提供者、司会、記録者含む)
- ・参加者：37名(アンケート回収21名、回収率57%)

4. 満足度

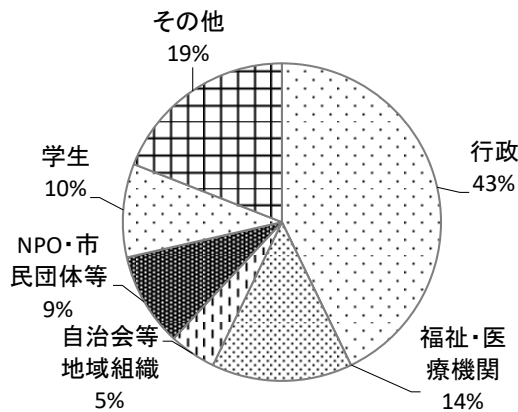
平均：4.5 (5点中)

5. 満足	4. 概ね満足	3. ふつう	2. あまり満足してない	1. 不満足
12名	8名	1名	0名	0名

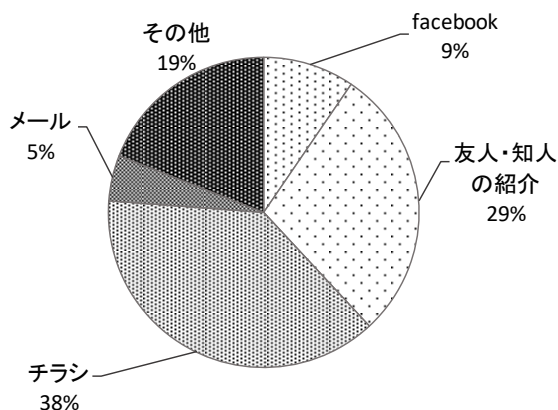
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・業務の範囲では知ることが出来ない情報が多く、いろいろな方の話が聞けたので良かったです
- ・同じ児童福祉課でも知らないことばかりだったので大変勉強になった
- ・他、行政関係以外の人と話せたこと。
- ・横浜市の取組、石垣のたりない所 生の声がきけて良かった
- ・地域に現状を知ってもらう良い機会になる
- ・石垣に住みながら子どももいますが、一人親世帯の中に悩んでいる子がいらっしゃると思うと、自分自身に何ができるのか？できることを探し実践したいと思います
- ・石垣生まれの石垣育ち。結婚して他県へ行くも又もどってきて石垣の現状を知らなすぎてたいへん勉強になりました
- ・ある程度の事はわかっているつもりでしたが、より深く知ることができ良かったです
- ・石垣市の現状を良く知れた。色々今後につながる動きがあったと思う
- ・子どもの貧困の現状・対策について、沖縄県・石垣市からの立場での政策・制度を知ることができた。現場での意見を聞くことができて貴重な時間であった
- ・色々な方の意見、石垣市の状況など知ることができました
- ・石垣市の現状、取り組みについて様々な知識を得ることができたし、グループでの話し合いでより考えを深めることができました！

(4. 概ね満足)

- ・ セッションでのワークはとてもよかったです
- ・ 現状を知る事が出来た
- ・ 普段接することのない方々の意見を聞き、話し合えたことは有意義でした。スライドの字が小さく、みえませんでした
- ・ 様々な立場の人の話が聞けた
- ・ 石垣での取り組みを多く聞く事ができ、又、専門家の立場からの話も聞く事ができてよかった
- ・ 各機関の代表6名と司会役がきちんとコーディネートしていて、話が聞きやすかったです
- ・ 石垣市児童福祉課とのつながりができました。ありがとうございます

(3. ふつう)

- ・ いいお話を聞けたし、ちょっと長かったのでひまだったからです！

6. 印象に残ったこと

- ・ PRの方法、当事者へいかに伝えるか
- ・ 高校生ボランティア
- ・ 学校・行政の連携の為に、研修等を通して方策を「見える化」していかないといけない
- ・ コープや大浜公民館を居場所にしては、との意見が出る事が貧困問題を地域で考える時期に入ってきたと思った
- ・ 石垣市の特徴として、移住者をどう地域社会につなげるかという部分があると気づいた
- ・ 石垣は大学がないからこそ、高校生ボランティアという視点を変えての考えは良いと思います。一人親にこそ、地域との交流をして子供と老人が関わり、お互い幸せになっていくことが大事だと思います
- ・ すべて良いですが石垣の現状報告があり良かったです
- ・ 子供達に寄り添っている大人も支援が必要。又、その支援する方々の育成も大切であるという事
- ・ 公民館を子供の居場所にするというのは良いアイデア
- ・ 最後に平良さんがおっしゃっていた「若年妊娠・多子」の問題は、子ども（中・高生）へのアプローチが重要であるとする。貧困の連鎖の一因である。学校教育への保健分野の介入も必要であるとする。また、ピアサポーターなどの本島からの派遣ボランティアも実施等取り組みが必要とする
- ・ 地域の子どもの接点を密に持ち児童福祉に詳しい専門員を役所の中へ配置してください。心や思いがない方には子どもの心はわかり得ないと感じます
- ・ ”子ども”からのつながりで地域を含め、これから取り組む必要があるな～と感じました

(写真) 会場の様子



情報を得る方法としては、
地域の時間あり。

→ 学校への参観も
地域の顔が見える関係

石垣島での 子育て

☆ 医療費など 他県と違う

☆ 子供 申請の仕方・手続き
やり方がわからない

☆ 制度の利用

本当に必要な人への
情報提供
どのように伝えたらいいか？

○ セーフティネットに引っぱり
ない子供は、どこか誰かが
このようにしてサポートし
上げるのか!!

○ 学校・行政・公民館・各
専門機関の横の連携
が、やはり薄いのかは
ないかと疑問が残った。

・ 学校と保護者の
連携が重要

・ 学校間で情報の
周知に差がある。

・ 無料室

・ 選択肢があることで
レシートを貼られることが
ない。

・ 子供食堂 → 子供おかわり
地域づくり

「拠点づくり」 高齢者と子ども
貧困対策事業
→ 子供・親の居場所

若年 ~~職業~~ 女性 } 小学校
キャリア教育 } 教育
貧困の連鎖

○ 事業について、必要とする人々と接する 機関・組織
に周知をする。

○ 子どもに対しても 情報を伝える (制服のリユース等)

福祉と教育の
連携を強化する。

学校を
プラットフォームとして
考える。

児童養育施設の子供には
部活動や課外活動費用が、学校旅行
費用とは別で提供。

昨年から 給付型奨学金ができた。

不登校になった子にその奨学金を
学校に通うおにやな。「なぜ通学し
ないか」という話を聞いた方が、その人い
る。その子を見え、中学生までとは違
うようにある。

食費や学費に補助する「
「先行投資」で貧困連鎖
を断ち切るのでは？」